



県立博物館と友の会の発展を願う

ほんだ そういち
本田 壮一（友の会役員）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前の 2018 年夏、イギリス医療の視察研修に参加した（7 月 8 日から 14 日）¹⁾。カンタベリーからロンドンに少し早く着き、夕食前のわずか 1 時間ばかりの時間だったが、大英博物館（British Museum）を見学した。通訳の S さんには、時間がなくても 3 つの展示（ロゼッタ・ストーン、パルテノン神殿、ミイラ）だけは見逃さないようにと助言をいただいた。

（1）ロゼッタ・ストーン（Rosetta Stone）：古代エジプト語のヒエログリフ（神聖文字）、デモティック（民衆文字）、ギリシャ文字の 3 つから構成されている石碑。1799 年にナポレオンのエジプト遠征で「発見」された。大阪府吹田市の国立民族学博物館にもレプリカがある。

（2）パルテノン（Parthenon）神殿の彫刻：ギリシャのアテネにある同神殿の破風の部分にあった彫刻。

（3）ミイラ（Mummy）の展示：古代エジプトのミイラが 120 以上も収蔵・展示されている。



図 1 大英博物館にて（ロンドン、2018 年 7 月）

あわただしい見学だったが、ガラスの屋根の明るいグレート・コート（Great Court）の土産物店とともに、記憶にとどまっている（図 1）。

2021 年 8 月、大きな期待を寄せていた徳島県立博物館の常設展が新しくなり、整理券の発行が必要なほどの盛況なオープニングとなった²⁾。大英博物館と同様に、3 つのおすすめの展示を考えてみた。知己となった学芸員の顔が浮かぶが、私見では、（1）恐竜、（2）銅鐸、（3）海の自然とくらしの展示を勧めたい³⁾。

（1）恐竜：勝浦町で発見された白亜紀の鳥脚類や竜脚類・獣脚類の歯の化石が展示されている。「地球セクション（地球と生命の歴史）」では、ティラノサウルスの全身骨格（複製）があり、生命の歴史を学ぶことができる。

（2）銅鐸：「先史・古代の徳島」に、水銀朱が使用された「朱塗りの銅鐸」が展示されている。

（3）海の自然とくらし：県南の海底、磯漁といただきさん（行商の女性）、遠洋漁業。友の会役員の大杉洋子さんと同じ美波町の生まれなので、県南に関わるこれらのテーマには特別な思い入れがある（図 2）。

毎年 12 月に、徳島新聞社は「県内 10 大ニュース」を発表している。読者の投票で決められる



図 2 県立博物館常設展・県南の海底ジオラマ前で大杉洋子さんとともに（常設展、2021 年 12 月）

が、2021年は、作家・瀬戸内寂聴^{せとうちやくちよう}の死去が第1位のニュースであった。私は10項目を初めて的中させた。けれども、この常設展リニューアルが、徳島新聞社のあげた50項目のニュース候補にならなかったのを残念に思った。コロナ禍^かが続いて機会が少ないが、徳島への来客があれば、鳴門の渦潮や阿波おどり会館とともに、上記の3つの展示を目玉にして県立博物館へ案内したいものである。

ところで、友の会活動では、常設展に関わるさまざまなフィールドワークを体験できる。たとえば、2021年2月には海陽町竹ヶ島の海岸^{たけがしま}、穴喰化石漣痕^{しきくい か せきれんこん おおざと こふん}、大里古墳（図3）を見学した。あわせて、当時、海陽町立博物館で開催中だった常設展プレビュー企画「徳島まるづかみ展 県南編」で漂着物の展示を見た。2021年9月には、ビーチコーミングを体験することができた⁴⁾。その後、漂着物は、新常設展県民コレクション最初の展示として紹介された。「とくしま海の観察会」と博物館との協働によるもの。

COVID-19流行前の2019年12月、高知市への日帰りバス旅行も思い出深い。牧野植物園^{まきののしょくぶつえん}や高知城（図4）を再訪し、詳しい解説を聞き、知的興味を満たした。

友の会の活動に参加するのは楽しい。この稿をまとめるにあたり、友の会ホームページ^{けい}に掲載されているアワーミュージアムのバックナン



図3 大里古墳の見学。結城孝典さん（友の会役員）とともに（海陽町・大里古墳、2021年2月）

バーを再読した。2000年11月の奈良・飛鳥^{あすか}一泊旅行をご一緒した天羽利夫元館長が次のように書いている。

「友の会活動の魅力は、さまざまな行事に参加して新たな知識を得たり、いろいろなことが体験できることだと思います。私は、これに一つ付け加えたいと思います。それは、会員相互が友達になり、幅広い人間関係をつくる、そんな場であることが友の会のもう一つの大きな魅力だと思っています。」⁵⁾

学芸員の解説を聞くだけでなく、友の会会員同士の交流をより活発にすることも目標にしたいと思う⁶⁾。（美波病院・院長）

（注）

- 1) 全国国民健康保険診療施設協議会：イギリス保健・医療・介護・福祉視察研修報告書、2018年。
- 2) 本田壯一：祝！徳島県立博物館リニューアル。徳島県医師会報 .No.603,p.29-30, 2021年。
- 3) 徳島県立博物館：徳島県立博物館常設展図録 徳島まるづかみ―“いのち”と“とき”のモノ語り―。徳島県立博物館, 2021年。
- 4) 本田壯一：ビーチコーミング、そして海のごみ問題を考える。徳島県医師会報 .No.606, p.38-39, 2021年。
- 5) 天羽利夫：飛鳥旅行の思い出。アワーミュージアム, 19号 ,p.1, 2002年。
- 6) 本田壯一：賢者は歴史を学ぶ（友の会幹事に就任して）。アワーミュージアム, 62号 ,p.3-6, 2018年。



図4 高知市日帰りバス旅行。茨木学芸員らとともに（高知城天守閣、2019年12月）

新設・県民コレクションで 展示をつくる

はま なおひろ
濱 直大 (友の会会員)

浜辺には波や風によって様々なものが打ち上げられています。流木や海藻、カラフルな貝殻、コロンとしたフォルムのウニの殻、ウミガメや海鳥の骨、ヤシの実などの黒潮の流れによって流れてきた南の島の実や種、外国の漁業浮きや飲料ペットボトルなどのプラスチック製ゴミ、ポップキャンディーのようなビーチグラス等々。

浜辺を歩いてそれらの中から自分だけの宝物を見つけ出すのが、ビーチコーミングです。コロナ禍において人混みが敬遠される昨今、グングン人気が高まっているアウトドア・アクティビティです。そのビーチコーミングを趣味としている方達が集まっているのが、私の所属する「とくしま海の観察会」です。

徳島県立博物館・新常設展示室の県民コレクションでの私共の展示は、もうご観覧いただけたでしょうか？ 徳島県内のアマチュア研究家が待望していた、博物館と共同研究した日頃の成果を発表する場として、「県民コレクション」のコーナーが県立博物館常設展示室のリニューアルを機に新設されました。



図1 「県民コレクション」の展示作業中 (2021年8月)



図2 「県民コレクション」の展示完成！ (2021年8月)

喜ばしいことに、その「県民コレクション」の名譽あるトップバッターを「とくしま海の観察会」が務めさせていただくことになりました。

リニューアルオープンに先駆け、新常設展プレビュー企画「徳島まるづかみ展」が県内各地で開催されました。ありがたいことに海陽町立博物館で開催された「県南編」や、文化の森多目的活動室で開催された「コミュニケーションで展示を楽しもう！」でも展示をさせていただいたので、展示の段取りはよく分かっています。

でも会場が変わる度に展示ケースも変わります。その都度、どの資料を展示するか、資料を載せる展示台のフェルトの色は何色にするか、数種類の色の展示台の上に展示物を並べてみな



図3 海陽町立博物館での「徳島まるづかみ展 県南編」の展示作業中の会員 (2021年2月)



図4 「県民コレクション」での展示解説(2021年12月)

から、見え方が一番いい色を入念に選びます。今回は無理を言って、希望の色のフェルトを張っていただきました。

来場して下さった方には多くの展示物を見ていただいて、ビーチコーミングに興味を持っていただきたい、そして出来る事なら我々の仲間を増やしたい！という気持ちもあります。あれもこれも詰め込んで展示したいという欲求があったのですが、如何せん展示ケースのスペースには限りがあります。前回までは展示できていたものが全部入りきらず、展示物の選択には本当に頭を悩ませました。

そこでケースに収まりきらなかった展示物は、小テーブルやパネル、イーゼルを用意してもらいました。張り付けたり吊るしたり、さらには大胆にフロアに直置きしてみたりと、仲間たちと共に、あれこれとアイデアを出し合い工夫をしながら展示を作り上げました。この作業は何度やってもワクワクして楽しいものです。

展示を見て下さった方々が、どのような反応をされるのか？ 何度か来場して下さった方の様子を観察させていただき、色々と反省点も見えてきました。ここをこうしたらもっとよかった。このような展示方法を試してみたらどうだろう？ アイデアは次々と湧いてきています。

友の会行事報告

たくほん
拓本をとろう

○日 時 11月6日(土) 13:00～15:30

○場 所 博物館実習室

○担 当 いしおかずひと
石尾和仁(友の会役員)おかもとはるよ
岡本治代(博物館学芸員)まるやまなおき
丸山直生(博物館係長)

○参加者 4名

木の葉や古い硬貨に紙を被せて、色鉛筆でこする「乾拓」と、土器や瓦に被せた紙を水で湿らせながら行う「湿拓」を行いました。実物の縄文土器等を使用する緊張感をとまなう作業でしたが、肉眼ではわからなかった細部の模様が鮮明に確認できると、驚きと感動がありました。また、「昔のお金のデザインは美しいなあ」と思わず参加者がつぶやくと「ますますお金が好きになりますね!」と講師が応え、笑いに包まれる瞬間もありました。(丸山直生)

Vo!c^e 参加者の声● ゆうき たかのり
結城孝典さん

周辺の山々の紅葉がすすむ景色に気分が高揚する中、拓本の体験をしました。「乾拓」では、木の葉の葉脈の繊細な様子が浮かび上がるのに感動しました。江戸・明治時代の古い硬貨でも



拓本とり。出来栄はいかが？

友の会行事報告

徳島城を歩こう

- 日時 12月5日(土) 13:00～15:30
- 場所 徳島市立徳島城博物館
とくしまじょうあと
徳島城跡
- 特別講師 もりわきたかふみ
森脇崇文氏(徳島城博物館学芸員)
- 担当 とくのとしはる
徳野壽治(友の会役員)
まつながともかず
松永友和(博物館学芸員)
いばらぎ やすし
茨木 靖(博物館学芸員)
まるやまなおき
丸山直生(博物館係長)

- 参加者 18名

徳島城博物館学芸員の森脇崇文氏による、徳島城博物館常設展と企画展「甲冑の美」の解説を聞き、国指定史跡徳島城跡を歩きました。

徳島城博物館では、阿波水軍の船、関ヶ原合戦図屏風などについて解説がありました。企画展では、円山応挙によって獅子が描かれた、蜂須賀宗鎮所用の紫系威大鎧(徳島市指定有形文化財)をはじめ、徳島藩ゆかりの甲冑についての解説がありました。

その後、蜂須賀家政像、徳島城本丸の石垣、東二の丸(天守跡)を歩いてめぐりました。また、城山貝塚や鳥居龍蔵博士についての解説もしました。さらに、城山の植物についての解説もし、人文と自然の分野がコラボした行事となりました。(丸山直生)

文様が浮かび上がり、とても効果的だと感じました。土器の湿拓では、採るタイミング、いわゆる「採り時」の難しさを痛感しました。

拓本は、肉眼や写真ではわからない対象物表面の繊細な模様・文字などの様子が、発見できますし、一つ一つが、自分のオリジナル作品なので、手作り感・達成感がありました。また、拓本は、貴重な記録としての意義があることも知りました。ぜひ、体験者が増えてほしいと思いました。

※文中に駄洒落が3か所あります。お気づきになりましたか？

●Kさん

葉っぱや古い硬貨に紙を被せて、色鉛筆で軽くこする「乾拓」では、目で見たり、指で触っただけではわからなかった模様が細部まで浮き上がりました。童心に戻って、夢中になりました。

紙を湿らせて墨で行う「湿拓」という方法も教えていただきました。難しかったですが、より模様をきれいに写しとることができ、これもまた夢中になってしまいました。ひたすら、土器や瓦、硬貨の模様を写し取り、その美しさに惚れ惚れとし、あっという間に時間が過ぎてしまいました。楽しい時間をありがとうございました。



行事で作った拓本作品コレクション

Voic^e 参加者の声

●平尾 順子さん

三好市に住む私にとって、徳島城は名前や在る場所は知っていても行ったことのないところでした。初めて行ったので嬉しかったです！徳島城博物館も城跡も解説付きで面白く、いろんなことが分かり有意義な時間でした。



徳島城博物館常設展での森脇学芸員による解説

●高田美紀子さん

徳島城博物館では常設展と企画展「甲冑かつちゆうの美」の解説をしていただきながら見学しました。阿波水軍の船の側面に鮮やかな絵が描かれているのに驚きました。船が速く進むようにとの願いが込められているとのこと、当時の船大工さんたちに思いを巡らせ、興味深かったです。

また、「関ヶ原合戦図屏風せきがはらかつせんずびょうぶ」に蜂須賀家の「のぼり旗ぼり」が確認でき、臨場感りんじょうかんを味わえました。甲冑は立派なものがたくさんあり、各部位の呼び方や役割について説明していただき、甲冑についての理解が深まりました。特に、蜂須賀宗鎮はちすかむねちかの大鎧おおよろいは豪華で、円山応挙ごうかが描いた獅子ししの図や龍の前立りゆうまえたが素晴らしく、見ているだけで楽しかったです。着用したらどのような感じになるのか、どのくらい重いのか、と興味がわきました。

●Tさん

学芸員の方々に、それぞれの専門からわかりやすく解説していただいたおかげで、大変勉強になりました。

地元徳島でも、知らないことがたくさんあることを改めて感じました。

●R・Dさん

はじめにいただいた資料ちゆうかの豪華さに驚きました。デザインが素敵すてきで、フリガナ付きで親切ひとめでした。一目で徳島城を把握はあくできるように、現地



蜂須賀家政銅像前での松永学芸員による解説

と模型の写真が並んでいて、歩きながら当時を想像はちすかけできました。また、蜂須賀家はちすかけについての記載きもあり、企画展とあわせて楽しめました。

友の会行事報告

どうたく
銅鐸をつくろう

- 日 時 12月11日(土) 13:30～15:30
- 場 所 博物館実習室
- 担 当 おおすぎようこ 大杉洋子(友の会役員)
うえちたけひこ 植地岳彦(博物館学芸員)
まるやまなおき 丸山直生(博物館係長)

○参加者 20名
銅鐸どうたくとは、釣鐘つりがねのような形の弥生時代の道具です。青銅と呼ばれる銅とスズの合金製で、弥生時代には黄金色に輝いていました。高さが10cm程度のものから130cmを超えるものまであります。ちなみに、1992年に徳島市で見つかった「矢野銅鐸やのどうたく」は98cmです。近畿地方に多いタイプで、比較的新しい種類の銅鐸どうたくです。古くは小型だったものが大型化しました。

銅鐸どうたくは、全国で500個以上が確認されています。徳島県内には、伝承を含めると50個もの銅鐸どうたくが知られており、その数は全国でもトップクラスです。しかし、弥生時代の徳島が銅鐸を多く所有していた理由については、まだ解明されていません。

そのような銅鐸どうたくについての解説を学芸員が

ら聞いた後、低温(約 200℃)で溶ける金属を「鑄型」に流し込み、高さが約 9cm のミニチュア銅鐸をつくりました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●桑内 隆さん

歴史・考古に興味があり参加しました。どのようにして金属を溶かすのかが疑問でした。「低融点合金」の存在を初めて知りました。金属が溶ける様子を見てみると、中学・高校時代にハンダ付けをしたのを思い出しました。面白い体験ができました。

●大平昌代さん

家庭用のコンロと鍋で手軽に鑄造ができることに感激しました。銅鐸だけでなく銅鏡もできるときいたので、今度は銅鏡づくりを希望します。

●Tさん

自分で作ったので銅鐸の作り方が理解できました。材料の低融点合金についても詳しく調べてみたいです。銅鐸が弥生時代にどのような目的で作られ、使われ、そして消えていったのか。

また、なぜ淡路島や徳島で多く出土するのか、もしタイムスリップできたら当時の人々の生活にふれてみたいです。銅鏡づくりができる機会があれば体験してみたいです。



植地学芸員による銅鐸の作り方解説



銅鐸の鑄型に溶けた金属を流し込む

●西村華那さん

私はこの銅鐸を作れる日を楽しみにしていました。なぜなら、社会の授業で銅鐸について習ったからです。でも、作り方までは知りませんでしたし、銅鐸は形として残るので、楽しみでワクワクしていました。

やってみると意外に難しく、金属を溶かしたり固めたりする作業に苦戦しました。現代の私がこれほど苦戦することを、昔の人がしているというのは、とてもすてきで、すばらしいと思います。銅鐸は昔の人の暮らしを私たちに伝えてくれています。銅鐸は「昔の宝」なのではなく、「恵の宝」なのではないのでしょうか。

友の会行事報告

新常設展展示解説

- 日時 2月12日(土) 13:30～15:30
- 場所 博物館常設展示室, 企画展示室
- 担当 行成正昭, 徳野壽治
本田壮一(友の会役員)
茨木 靖, 磯本宏紀, 長谷川賢二
大橋俊雄, 中尾賢一, 岡本治代
井藤大樹(博物館学芸員)
丸山直生(博物館係長)

○参加者 20名

参加者を2つのグループに分け、博物館新常設展を交代で巡りながら、展示解説をしました。参加者からは、「見ごたえがある」「藍色の絨毯

に徳島らしさを感じる」「江戸時代に興味があ
るが、展示物がより充実していた」「短時間で
効率よく見学できた」「友の会に初めて入会し
たが、これからも行事に参加したい」等の感想
をいただきました。

また、鳥居龍蔵記念博物館の下田^{しもだ じゅんいち} 順一学芸員
による解説で、企画展「鳥居龍蔵と草原の遊牧
王朝^{りょう} 遼」の見学もしました。「遼の名前をドラ
マで聞いたことがあったが、説明が聞けてよ
かった」「鳥居龍蔵をはじめ、地道な研究をし
ている人はすごい」等の感想をいただきました。
(丸山直生^{まるやま なおき})

Voic^e 参加者の声

●^{もりおか まき} 森岡真紀さん・^{りょう} 諒さん

2/12 (土)、待ちに待った新常設展示室の展
示解説に参加することができました。

リニューアル後に何度か訪れましたが、今回
は、それぞれのゾーンで専門の先生方からおス
スメやいち押しスポットの紹介があり、とても
贅^{ぜいたく}沢な時間を過ごすことができました。小6の
息子も、元々興味のある古生物や地質のゾーン



歴史・文化コレクションでの岡本学芸員による解説

以外のエリアも楽しく^{かんらん} 観覧することができたよ
うで、^{たくさん} 沢山写真を撮っていました。

今回のイベントで今年度の友の会行事は終了
とのことですが、来年度も楽しくためになる企
画を期待しています。コロナ禍^かの中、いろいろ
工夫して下さりありがとうございます。

●^{かたべ にちか} 形部仁悠さん

新しい常設展になり初めて入館しました。時
代ごとに細かく展示がわかれていて、とても分
かりやすかったです。銅鐸^{どうたく}をぐるりと周りから
見ることができたり、カンドリ舟の底が見られ
たり展示が工夫されていて楽しかったです (今
までにない展示の仕方だったので)。

全部見ることは出来なかったのですが、明日、お
父さんも一緒に見に来ようと思います。そして、
今日教えてもらったことを、お父さんにも教え
てあげたいです。

昨年度の行事(まるづかみの旅県南編)で僕
が見つけた化石と同じ種類のものが「四国の地
質」のコーナーに展示されていてうれしかった
です。



「徳島恐竜コレクション」に大集合!

アワーミュージアム 第69号

2022年3月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-fukyu@bunmori.tokushima.jp